

玉樹 だより

社会福祉法人 紬会 つむぎかい

2019 年 1 月 第 45 号

RSG

大川栄養士命名

R: 理事長の

S: 食事で

G: 頑張る

月に1回、理事長が
職員のために腕をふるって
昼食をご馳走してくれます。
メニューは、手打ち蕎麦
or カレー（月替わり）



理事長にインタビューしました。

★始めようと思ったきっかけは？

「頑張っている職員さんに何か還元したい!」「職員同士のコミュニケーションの場を作りたい」と始めました。玉樹はユニット型で、お年寄りにとっては毎日なじみの職員にケアしてもらえるメリットがありますが、職員にとっては、所属しているユニット以外の職員との会話が希薄になりがちです。そこで、みんなで食事をする機会を作ることで、他部署の職員とも交流できる時間を作り、社内の風通しの良さにも繋がるようにと考えました。

★こだわりは？

蕎麦は手打ち。職員の好みに合わせて、温・冷、うどんも選べます。カレーは中村屋のルーをベースに4種類をブレンド。隠し味に牛乳、りんごジュースを使っています。

★スタートしてから3年経ちましたが、今の想いは？

職員が「美味しい」と言ってくれるのが1番嬉しいです。私自身が職員と会話をするきっかけにもなり、積極的にコミュニケーションをとることを心掛けています。また、日ごろの感謝の気持ちを込めて、玉樹関係者の皆さんや地域の方々も招いており、地域の方と繋がるきっかけにもなればと思っています。



掲載された写真は、本人様並びに家族様の了承の上で掲載しております



認知症になっても人生終わりじゃない



2018年11月10日(土)、茨城県教育委員会主催「認知症講演会」が八千代町中央公民館にて開催され、地域の方々が約120名参加しました。玉樹からは本部長が講師として参加しました。

最近では認知症についてテレビでも取り上げられることが多いですが、漠然と「認知症になったら終わり…」というイメージを抱いている方も多いと思います。認知症の「予防」に関する番組ばかりで、たとえ認知症になっても楽しんで過ごしている様子が放送されることは少ないです。そこで、この講演を通して認知症の方でも玉樹で楽しみながら、その方らしく普通に暮らしている実際の様子を伝えることで、福祉施設での生活を知っていただくきっかけになればと参加させていただきました。



また、認知症・看取りをテーマにした映画「ケアニン」の上映会も行われました。映画を見た方からは「特別じゃない、普通の人と同じで寄り添うことの大切さを感じた」「入居している方の生活を知ることができた」「看取りを考えるきっかけになった」等、様々な感想がありました。その中でも「年をとることに勇気が持てました。」という言葉は、高齢者の生活をサポートさせていただいている私たちにとって、「認知症になっても人生終わりじゃない」という想いが伝わったかなと嬉しく感じました。誰もなる可能性がある認知症だからこそ、その方らしく楽しく笑って過ごせるよう、そして安心して最後を迎えられるようケアしていこうと思います。



チンドン一座がやって来た♪

11月26日、コレナガ蜚気楼 チンドン一座の皆様が、岐阜・大阪・京都から、遙々八千代町まで来てくださいました。職員の前野さんもカホンという打楽器を演奏し仲間入り。デイサービスでの演奏に加え、入居者様のお部屋をサプライズで練り歩き♪突然、目の前に現れたチンドン屋さんにお年寄りにはビックリしながらも、本当に楽しそうでした。ありがとうございました。



秋のぎゅんぎゅんバスツアー

今回の入居のバスツアーは定番になりつつある

「アクアワールド大洗水族館」「めんたいパーク」へ

行ってきました。行き慣れた場所で、利用者様も

一度行けた場所という安心感があり「今回はこういう風に回ろう！」

「イルカショーを観る！」「ご飯はこれが食べたい！」など、不安ではなく、楽しみという気持ちを持って行けた方も多かったと思います。



この大きな水槽の前に来ると、
時間を忘れてずっと見てしまいます



海鮮丼・えび天丼
アンコウ汁など
地元の美味しい物を
お腹いっぱい♪

うんまいや～



職員の声

ツアー初参加！
作業療法士の渡邊さん

日々のリハビリの成果が
見えて嬉しくなりました♪
また「外出するには、
こんなリハビリも必要な」と
見えてくるものも沢山あり、
参加できて良かったです★



完食！



秋のぎゅんぎゅんバスツアー 家族と一緒に



今回は3組の家族様が参加され、非日常の時間を利用者様や家族様と私達職員が共有することができました。また、家族の温かなやり取りを近くで拝見しながら、家族様とも沢山お話をさせていただき、私達も『家族の一員』になったような幸せな時間を過ごすことができました。

お嫁様と一緒に
幸せの鈴を
鳴らして
満面の笑み♪



職員の声

ひまわり荘 高田ケアワーカー

バスの中では利用者様と家族様とのお話を聞くことができました。嬉しそうに娘さんと話している姿、普段見られない表情、笑顔がとても印象的でした。私自身も楽しんでしまいました！

おみやげ選びも
楽しみのひとつ♪



疲れたけど
楽しかった～♪

めんたいパーク♪

2018年10



大好きな
職員さんと
一緒に♪

ツアーから戻ると、

「次は日光がいいかな。袋田かな。那須かな。」など、さっそく春のツアーを話題にされている利用者様もいらっしゃいました！このツアーがまた自信になり、

次は「こうしたい」という目標を持っていただけことがとても嬉しいです。

また次の目標をかなえる為、みんなで全力サポートさせていただければと思います！



「帰りたい」の応えかた

「どうして泊まらなきゃいけないの?」「家族が心配するから家まで送ってください。」「夕方のバスに乗せてください。暗くなるまでに帰らなきゃ!」皆さんからの話しは十人十色。

話しの中心は「家に帰りたい!!」という気持ち。

どの言葉を聴いても「不安」「不満」「どうして?」という心細い気持ちが感じられます。なんだか淋しい、悲しい気持ちになるのは私だけでしょうか・・・。



せん様(仮名)は認知症状がみられ、同じ話を何度も繰り返しています。
「ちょっと用事があるんで帰らせてくださいよ。」と1日中訴えが続きます。
お話を聞く機会をその都度設けていますが、効果はみられません。

ある日、せん様から「私の部屋を見せてください!一緒に見に行ってください!」と話があり、部屋に行くと「このベッドは私のものですか?この枕も?」「このタンスの中の服は私のものですか?」と一つひとつ声にだして確認していました。私も質問に一つひとつ応えました。

すると、「分かりました。私の部屋でいいんですね?今晚ココに泊まります。」とニコッと笑顔を見せてくださいました。そして、またリビングの席へ自ら戻りました。



えっ!? 確認? 納得して泊まってくれるの? 少し驚きの事態に出くわした私の表情が面白かったのか、せん様は私の顔を指差して笑っていました。そして何事も無かったかのようにテレビで「大相撲観戦...」。その後は「帰ります」の訴えは無く夜を迎えました。



そうか!【ココにいてもいいんだ。ココには私の物があるし、私の布団もある。大丈夫なんだ。】という安心感・居心地の良さを、せん様は自分で見つけて下さったんだと気づきました。そして「帰りたい」の気持ちに応える術は「お部屋(本人の居場所)がある。ココに居ていいんだ。」という確認作業に丁寧に付き合わせ頂く事だと分かりました。

なんだか気持ちがパッと晴れて笑顔がこぼれていました。それからの毎日は1日に2回ほどある「確認作業」にお供させて頂いております。

利用者様それぞれに安心できるものは違います。

「不安で仕方ないよ。これではお泊りできないよ、どうしよう。」や

「安心できてるよ。今日はお泊りできるよ。」というサインは必ず出してくれているはずです。

利用者様それぞれのサインに気づき、どのような形で応えていくかを早急に見つけ出すという作業を繰り返し行い、「玉樹なら泊まっていいよ」と笑顔で言っていただけるよう努力していきたいです。



不確かの中の確か

デイサービス玉樹は、25名定員のいわゆる「通常規模型」と呼ばれるデイサービスです。お年寄りの皆さんはここで、気の合う人と一緒に過ごしつつ、あまり得意ではない人とは、適度な距離感を保ちつつ暮らしています。

人付き合いを限定的にし過ぎずに、逃げ場を持ちつつ、様々な他者と折り合いをつけながら暮らすことのできるこの人数の規模は、バランスの良い人間関係をつくっているように思います。人が多くなり過ぎると、「お年寄り同士」も「お年寄り対職員」もお互いのことを深く知り合えなくなってしまうし、折り合いをつけるまでもなく接点を絶つことができってしまうくらいがあります。

人は「支えてもらう」だけでは、申し訳なさを感じて息が詰まってしまう。「支えてあげる」だけでも長続きしません。大切なのは、立場が入れ替わり交差するような、誰にでも立つ瀬があって「ここに居ても良いんだ」と思える様々な関係を紡ぐこと。そのために私たちは、お年寄り同士の付き合いに過剰な介入はしませんし、「介護する」「される」の介護関係は最低限に留めた中で暮らせるようにと関わっています。

週に3回デイサービスに通っても、滞在している時間は1週間168時間の内の21時間にすぎません。デイサービスで楽しく過ごしたところで、残りの147時間に大きな変化の見られない人もいます。国が目指す自立支援の形からすれば、これではいけないのかもしれませんが。

それでも、他者と共に笑い、怒り、泣きながら紡いでいく何気ない日常があること。そして共に過ごす人、時間、出来事、場があることに嘘偽りはありません。

こんな非生産的で非効率的かもしれない日常と人付き合いの中で、ほんの少しでも“生きている実感”が得られているのならば、それも悪くはないのではないかと思います。

綺麗ごとばかりではありませんが、人と人が繋がりが合うこと、つまり関係の中に自分が存在することによって、自分の“居場所”を見つけられ人間らしく暮らしていけること。

“生きる”ということに、ほんの少し前向きになれること。

そんなことを日常の何気ない一場で実感できる、暮らしを織り成す何も特別ではないところ……。デイサービス玉樹は、これからもそんな場であれたいと思います。



ヤスさんのキラリッ☆ ～心が動く瞬間～

歌が上手なヤスさん。大好きなお風呂で歌ってくださる甘い声は、聞き惚れてしまいます。「素敵な歌声ですね」と伝えると、いつも照れた様子で「そんなことないよ」と仰られていました。そんな折、玉樹のど自慢大会の出場者募集が始まりました。去年は、調子が整わず出場を断念されたと聞いてきたので、今年こそ出場していただく！とお誘いしました。

しかし、ヤスさんは「無理だよ、声でないもん。」と乗り気ではない様子。

そこで「声がでない」という心配を解消できたらと、大好きなお風呂で曲を流しながら歌の練習をサポートしました。利用日には毎回、繰り返し練習を続けた結果、ヤスさんの気持ちが少し前向きになり、何とか出場を承諾して下さいました。



そして当日を迎え...いざ本番!

60人の観客を前に緊張は伝わってきましたが、奥様も応援に駆け付けて下さり、今までで一番大きな声が出ていました♪歌い終えて感想を尋ねられると「新曲を練習して、来年も出ます☆」と仰られ、しっかりと皆さんのハートをわし掴みにされておりました。

そして、見事「特別賞」にも輝き、大変喜ばれていました。

以前のヤスさんは、体操やレクリエーションにお誘いしても身体的不安からか「俺はいいよ」と消極的でした。しかし、のど自慢出場後は体操にも前向きで、一生懸命取り組まれています。

のど自慢で歌えたこと、特別賞を受賞したことで自信を持つことができ、キラリッ☆と心が動き、『日常生活』でも前向きな気持ちの変化に繋がったのだと思います。



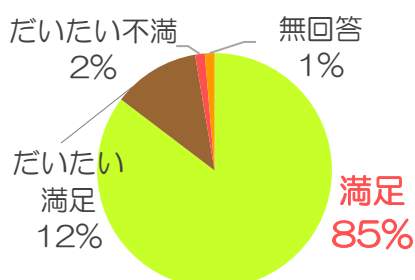
高齢になると気持ちとは裏腹に、身体が言う事を聞かなくなってくることも多いと思います。でも、日常の中で「いつもより歩けた」「いつもより手が上がった」「いつもよりご飯が美味しく食べられた」等、少しでも利用者様に自信をもてただけるように、『キラリッ☆と心が動く』ようなお手伝いをさせていただきたいと思います。



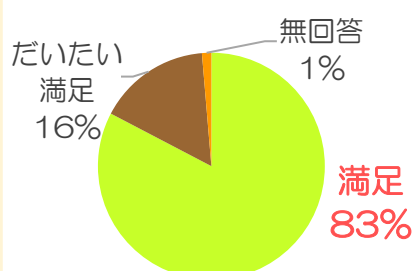
満足度調査

居宅介護支援事業所 玉樹で支援させていただいている利用者様を対象に、サービスの質の向上を目的に行った満足度調査と、アンケートの結果をご報告します。※回答率は67%

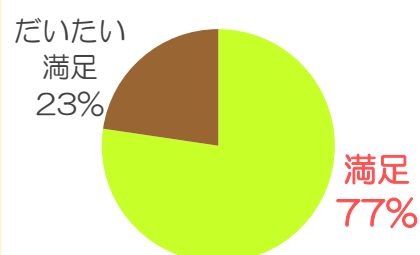
担当ケアマネジャーに相談・要望・苦情があった際、相談しやすい雰囲気でしたか？



ケアプランを立てる際、利用者様、家族様の希望を聞いた上で十分な話し合いができていますか？



現在のケアプランは利用者様、家族様の心身の状態や生活環境の維持・改善に繋がりましたか？



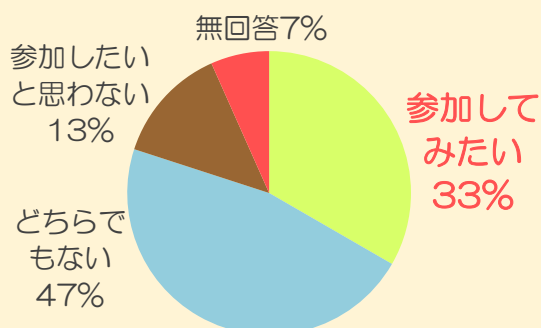
＜ご意見、ご要望抜粋＞

- ・介護の困りごとを、いつも親身になって考え、解決してくださり本当に助かっております。とても頼りになり私も気持ちが楽になりました。

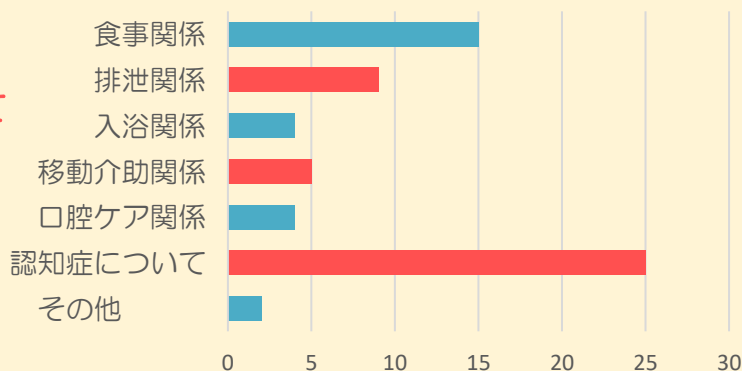
今回の調査で「だいたい不満」という声があったことも真摯に受け止め、安心して相談していただけるよう誠実に対応し、信頼関係が築けるよう心がけていきたいと思ひます。

アンケート「介護者向けサロン」

●介護者向けサロンに参加してみたいと思ひますか？



●サロンではミニ講座を開催していますが、どんな講座に興味がありますか？



＜ご意見、ご要望抜粋＞

- ・仕事や自分のこと、親のことでイライラする事があり、いつか参加してみたい。

今後も皆様のご意見を反映し、ご利用者様の満足度向上のため、サービスの改善に努めてまいります。調査・アンケートへのご協力ありがとうございました。